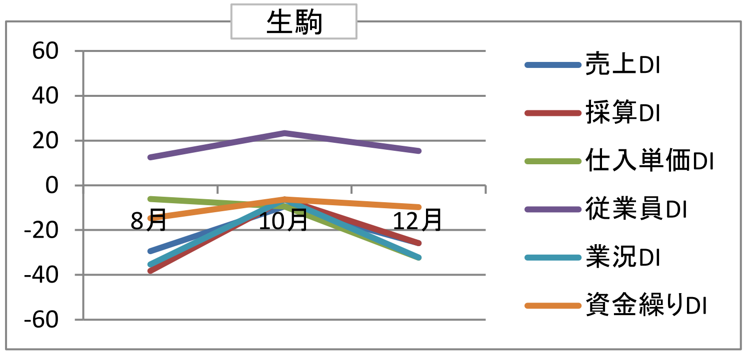
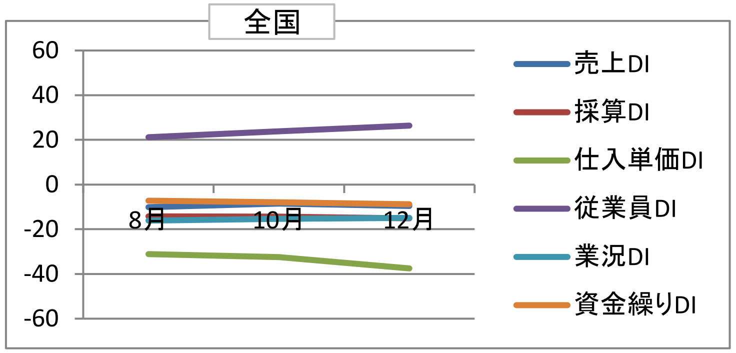
経済動向(8月～12月)の推移

全産業

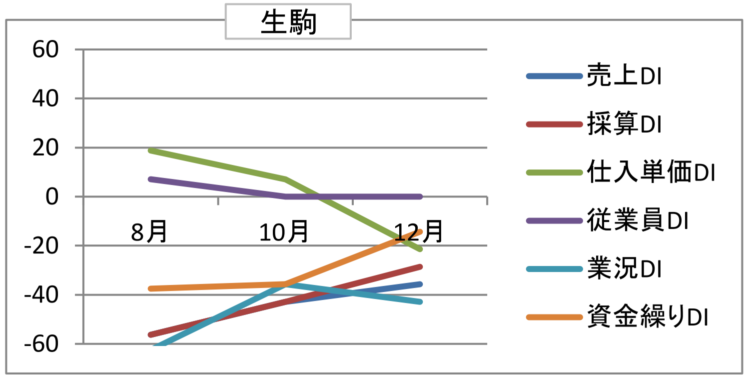
	生駒			全国		
	8月	10月	12月	8月	10月	12月
売上DI	−29.4	−9.4	−25.8	−10.1	−8.5	−9.5
採算DI	−38.2	−6.3	−25.8	−14.2	−14.4	−15.1
仕入単価DI	−6.1	−9.4	−32.3	−31.1	−32.5	−37.5
従業員DI	12.5	23.3	15.4	21.2	23.8	26.4
業況DI	−35.3	−6.3	−32.3	−16.1	−15.3	−14.9
資金繰りDI	−14.7	−6.3	−9.7	−7.2	−8	−8.8

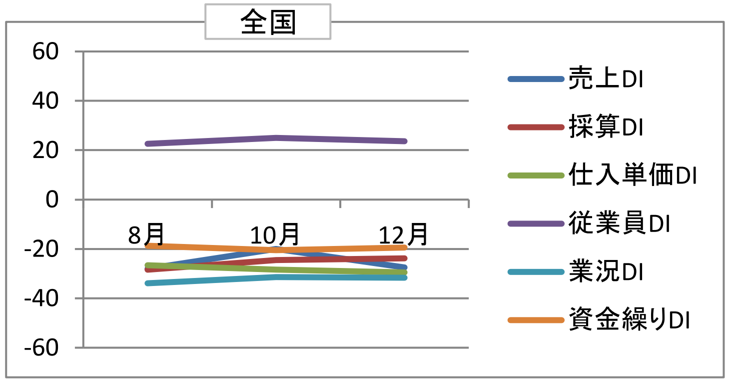




小売

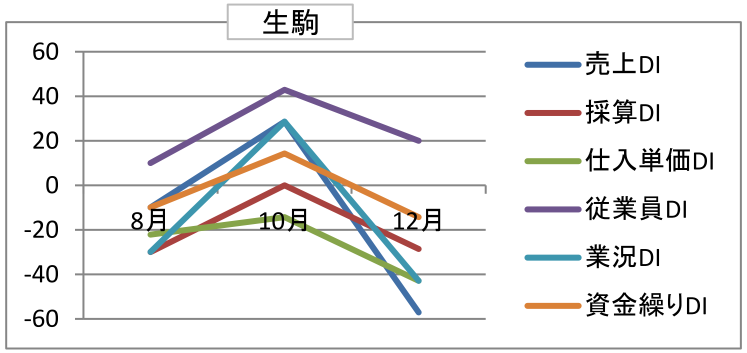
	生駒			全国		
	8月	10月	12月	8月	10月	12月
売上DI	−56.3	−42.9	−35.7	−28	−20	−27.5
採算DI	−56.3	−42.9	−28.6	−28.4	−24.5	−23.8
仕入単価DI	18.8	7.1	−21.4	−26.6	−28.4	−29.5
従業員DI	7.1	0	0	22.6	25	23.6
業況DI	−62.5	−35.7	−42.9	−33.9	−31.4	−31.7
資金繰りDI	−37.5	−35.7	−14.3	−18.7	−20.5	−19.4

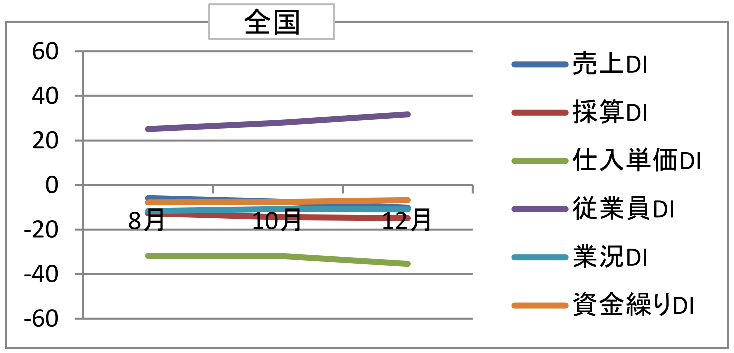




サービス

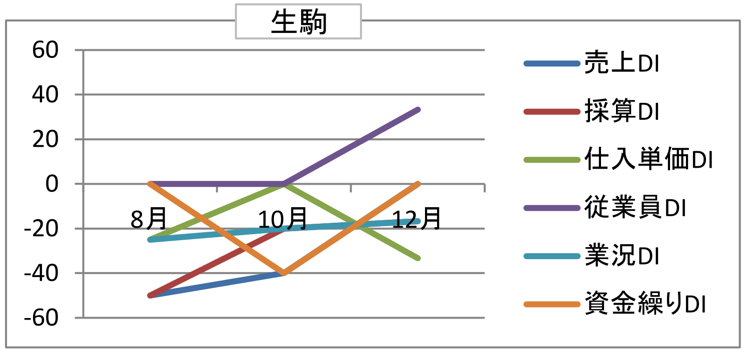
	生駒			全国		
	8月	10月	12月	8月	10月	12月
売上DI	−10	28.6	−57.1	−5.9	−7.5	−10.2
採算DI	−30	0	−28.6	−12.7	−14.4	−14.9
仕入単価DI	−22.2	−14.3	−42.9	−31.8	−31.8	−35.4
従業員DI	10	42.9	20	25.1	27.8	31.7
業況DI	−30	28.6	−42.9	−11.7	−10.8	−10.9
資金繰りDI	−10	14.3	−14.3	−7.8	−7.6	−6.8

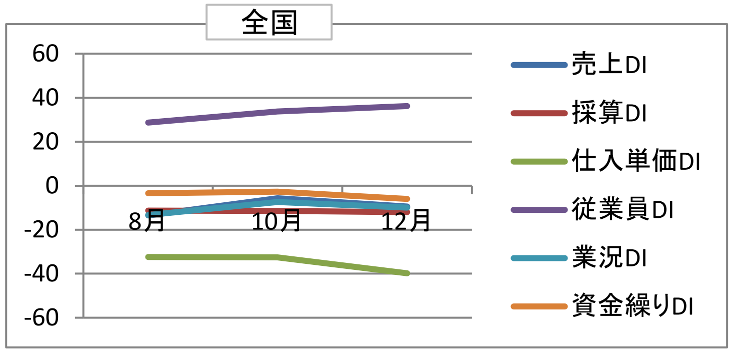




建築

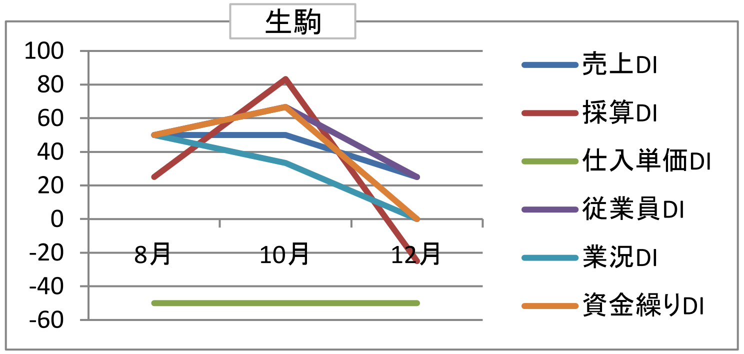
	生駒			全国		
	8月	10月	12月	8月	10月	12月
売上DI	−50	−40	0	−13.5	−5.7	−9.4
採算DI	−50	−20	−16.7	−11.3	−11.4	−12
仕入単価DI	−25	0	−33.3	−32.4	−32.5	−39.8
従業員DI	0	0	33.3	28.7	33.8	36.2
業況DI	−25	−20	−16.7	−13.3	−7.4	−10
資金繰りDI	0	−40	0	−3.4	−2.7	−6

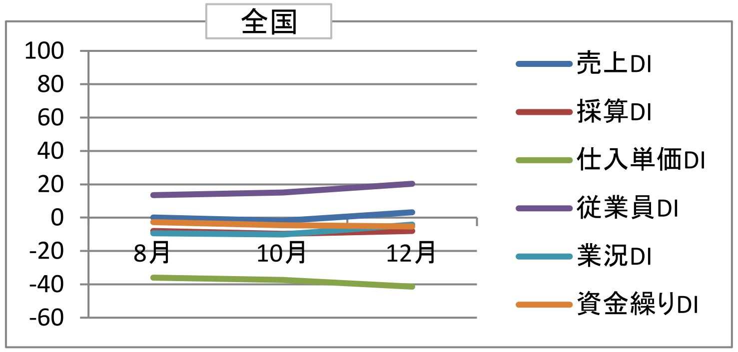




製造

	生駒			全国		
	8月	10月	12月	8月	10月	12月
売上DI	50	50	25	0	−1.9	3.2
採算DI	25	83.3	−25	−8	−9.7	−8
仕入単価DI	−50	−50	−50	−36	−37.4	−41.4
従業員DI	50	66.7	25	13.5	15	20.3
業況DI	50	33.3	0	−9.5	−10.1	−4.2
資金繰りDI	50	66.7	0	−2.7	−4.5	−5.3





【経済動向の推移（2017年8月～12月）についてのコメント】

１．業種別の推移

１）全産業

生駒市内企業の業況DIは、悪いながらも8月から10月にかけて良化し、12月にかけて悪化するという推移をたどっている。売上と採算についても同様の推移を示している。全国平均では、業況・売上・採算のDIはいずれもややマイナスではあるが横ばいの推移をたどっており、それに比べると生駒市内企業は、やや厳しい状況にある。資金繰りDIはマイナスではあるが、全国平均と同様にその値は小さく、横ばいで推移している。従業員DIは、全国平均と同様に不足で推移している。また仕入単価DIは下降傾向にあり、全国平均に比べるとやや弱いものの、仕入価格の上昇がさらに顕著になっている。

２）小売業

生駒市内の小売業の業況DIは、悪いながらも8月から10月にかけて持ち直したが、12月にかけてまた悪化の傾向となっている。全国平均よりもマイナス幅は大きい。売上DIと採算DIは少し持ち直してきているが、依然マイナス幅は大きく、全国平均より厳しい経営環境が続いている。　ただ、資金繰りDIはマイナスではあるが、12月で全国平均並みまで改善している。従業員DIは、全国平均が+20台で推移しているのに比べて、生駒市内の小売業では0で推移しており、人材の不足感はほとんどない。一方、仕入単価DIは+18.8（8月）から-21.4（12月）へと大きく下降しており、全国平均と同様に仕入価格が高騰しており、採算DIの悪化にも影響を与えていると思われる。

３）サービス業

生駒市内のサービス業の業況DIは、8月から10月にかけて、-30から+28.6と大きく上昇したが、12月にかけて-42.9と大きく悪化している。売上DIと採算DIも上昇して減少という推移をたどっており、不安定になっている。全国平均に比べてマイナス幅は大きい。資金繰りDIも同様の推移を示している。従業員DIは、10月時点で42.9と不足感のピークがみられるが、12月では全国平均並みまで緩和されている。売上の減少によって人手不足感が緩和されたと思われる。仕入単価DIも12月で大きく下落しており、仕入価格の高騰が採算DIにも影響を及ぼしていると思われる。

４）建設業

生駒市内の建設業の業況DIは、緩やかに回復しているが、12月時点で、まだ-16.7である。全国平均が-10前後で推移しているのに比べると業況は悪い。売上DIは12月で0まで回復しており、全国平均より良くなっているが、採算DIは12月で-16.7となっており、全国平均の-12よりも悪い。資金繰りDIは10月で-40と大きく悪化しているが、12月には0まで回復している。従業員DIは、12月になって+33.3と急激に上昇しており、人手不足が顕在化している。全国平均では以前から人手不足が続いている。仕入単価DIは、10月に0まで回復したが、12月には-33.3と再び全国平均並みに高騰している。

５）製造業

生駒市内の製造業の業況DIは、8月の+50から下降傾向をたどり、12月で0になっている。全国平均が0付近で横ばいで推移してきたのに比べると、期待値が萎んできている様子がうかがえる。売上DIは依然プラスだが、増加幅が小さくなっている。採算DIは、10月に83.3と大きく上昇しているが、12月には-25まで下落している。資金繰りDIも10月の+66.7から12月には0まで落ち込んでいる。全国平均では、売上DI、採算DI、資金繰りDIのいずれも0付近で横ばいで推移しているのに比べて変化が激しい。従業員DIは、プラス幅が小さくなっているが、全国平均に比べて大きく、依然、人手不足が深刻で、これが売上の伸び悩みの原因の一つである可能性もある。仕入単価DIは-50で横ばいで、全国平均と同様に、仕入価格の高騰が続いている。採算悪化の原因の一つと思われる。

２．総評

生駒市内企業の調査サンプル数が少ないので、変化がやや鋭敏に表れていることを考慮するする必要はあるが、景況感は、全国平均では全業種ともやや悪化で横ばいであるのに対して、生駒市内企業では、小売業とサービス業においては全国平均より厳しい経営状況にある。消費者の節約志向と野菜や果物の仕入価格の高騰が影響していると思われる。製造業では、景気への期待感は薄らいでいるものの、まだ売上は増加すると見ている企業が多い。ただ、人手不足の深刻化と材料仕入価格や原油価格の上昇が利益を圧迫している。建設業は全国平均並みに回復しており、東京五輪を控え今後の景気拡大に期待感があるが、製造業と同様に人手不足の深刻化と材料仕入価格や原油価格の上昇の経営への悪影響が懸念される。

全業種とも求められているのは生産性向上である。望み通りに人員増加が叶わない状況で、売上を増加させコスト増加要因を吸収しつつ利益を増加させるためには、積極的で緻密な経営計画を描き、設備投資やICT化を含め、労働生産性を高めることが重要となる。一方で経営者の高齢化が進んでいることから、こうした攻めの経営を後継者が中心になって進め、事業承継の契機にすることも有効と思われる。